

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300489		
法人名	NPO法人 菜々の会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	佐賀県鳥栖市儀徳町2907-1		
自己評価作成日	平成25年7月26日	評価結果市町村受理日	平成25年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの個々の状態把握しご本人さん、お家族の希望に添えるように、1人1人に寄り添い日々穏やかに過ごせるように、精神安定につなげた援助を行っています。又、拘束ゼロ、施錠行わず、外出される時も必ず傍にいたり、遠目の見守りで決して制止したりせず受け入れたケア、楽しみの食事にも力を入れバランスのとれた食事の提供で毎食を楽しみにさせています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中の静かな環境に建っているホームである。ホーム管理者は地域の方々と古くから付き合いがあることから、ホームも地域と肩の力を抜いたほどよい関係性が築かれている。リビングには入居者と一緒に作成した、工夫を凝らした季節ごとの作品が、壁全面を使い飾られている等、ホーム全体は温かく明るい雰囲気を感じることができる。また、入居者一人ひとりの気持ちを理解するとともに、その時の状況に応じた関わりを重視し、落ち着き安心して生活できるよう、職員が一体となって生活の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき運営事項等の実践に繋げ、理念については毎日の朝礼時に唱和を行っている。	理念はホールに掲げており、朝礼時に確認と唱和をし、理念の共有と実践を行っている。勤務年数が長い職員も多く、職員に馴染んだ理念となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームに住所を置かれている方に関しては地域の行事参加として地域に出向いている。	サロン活動や敬老会等へ参加し、地域とのつながりながら暮らせるように取り組んでいる。また、地域住民とも何でも話すことができる関係づくりを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員を通じて認知症の過ごされ方、関わり方、特に1人暮らしの方への呼びかけをお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の委員会で家族の方自由参加で、いつもは自分とこの報告はすぐ頂いているが、他の方の状況もわかり喜ばれている。	2ヶ月に1回の会議では、参加した家族や地域の副部長、民生委員、婦人部長等から意見、アドバイスをもらいサービス向上へ活かしている。タイミングが合えば、入居者の方も参加できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護課から運営推進委員会への参加、安心相談委員さんの訪問を受け、入所者さんとのお話の機会を持ったり、オープンにしたホームとなっている。	安心相談員の定期訪問や介護保険課への直接の問い合わせ等、普段から相談できる体制づくりを行っている。また、市の担当者からの声かけもあり、市との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロにつなげ1年以上の経過を見ています。夜勤体制が1人により、安全面優先家族の希望もあり、センサーマットの使用があるが、理解力低下の方には外せない問題である。	身体拘束ゼロの取り組みを行い、入居者の生活を支えている。身体拘束等については、安全面や家族の意向等を踏まえながら、ホーム全体で検討し、職員の共通理解を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待についても学習会等で改善をみている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会での学習も一部に限られ、全職員にまでいきわたっていない。しかし利用者さんで必要検討されたかたもあり実践より学習行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の説明、都度の説明で理解、納得を得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者、家族とのコミュニケーションを図り、意見、要望があったら直解決するように図っている。又推進委員会の参加も行われ、意見、質問もされている。	運営推進会議や面会時等の機会がある度に、入居者の状況を伝え、普段の生活を理解してもらうようにしている。家族が遠慮なく意見を言えるような雰囲気づくりを行い、意見・要望に沿えるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時のカンファレンス開催、都度提案事項の検討、運営に反映させている。	定例カンファレンスをはじめ、ミニカンファレンス等、適宜、意見交換ができる場を設けている。出された意見については、早く解決できるように取り組んでいる。また、個別に意見交換できる機会も準備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状で出来る限り努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加呼びかけに極力参加、参加後は施設において、学習会を開き向上への努力を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会に参加、施設の訪問時わからない点の話し合い、指導を受けたり積極的に外部からの意見を反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時のアセスメントにより、本人、家族の希望に添えるように計画を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のアセスメントで本人さんの気持ちを伝え家族の出来る範囲を調整、一緒に計画づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず見学、段階で他の事業所の見学も薦め、ご本人さんに合うかどうかの検討も薦め選択の幅のすすめを行い、十分見極めが出来る支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場に立ち話を聞き、寄り添ったケアを行う事で関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時、又お知らせしたいこと等の報告、逐次家族、職員との関係が築かれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の促し、精神的分野の家族への協力得たり、行事等で一緒に食事を行ったりわずかな時間でも日頃の生活状況を理解していただいている。	ホーム自体が地域に馴染んでおり、家族以外の知人等が訪れ、自由に面会できる雰囲気づくりに努めている。また、馴染みの場所へ行けるように家族と協力をしながら行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士ではコミュニケーションは取り難い面もあるが職員が中に入る事で孤立することなくうまく行けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去時に対しては見舞い等、院内のソーシャルワーカーさんへ家族の気持ちを伝えたり情報提供で家族の安心につなげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分なアセスメントで計画に反映するように。家族が受け入れることが出来ない困難な場合本人に話を繰り返し行い1日が楽しいものとなるようにかかわっている。	一人ひとりの性格や状態、場の雰囲気に合わせて、言葉かけをし、本人の希望、意見を理解するようにしている。意思表示が困難な場合でも、気持ちに寄り添い入居者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントが反映するように、新たな問題等は家族に相談の上、検討、計画に挙げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務の中で管理者を始め関わる全ての者が意識を持つ事で状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、担当者会議、の実施、Dr、家族の意見希望も把握し、計画の作成にあたっている。	職員からの日々の様子・状態の報告をもとに、担当者会議を開催し、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。会議には医師等の関係者だけでなく、家族に参加してもらい、意見を聞くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援経過の徹底、細かな観察記録、目を通す事で計画、変更にいかにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の現状で出来る限りの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物の招待に引率を行いホームであじあえない他との交流が図られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にホームの主治医の話をし、診察を受け承、ホームでの往診、受診へとつなげている。又高齢の方、疾患によってはDrと家族と居宅療養の契約もされ安心して往診医療が受けられるように支援がされている。	入居時に入居者や家族の希望を確認し、かかりつけ医の診察を受けられるようにしている。また、協力医との連携や他科受診ができる体制を整え、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の業務の中で利用者さんの心身の状態観察を行ない、気づきの変化を看護師に報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師、介護支援専門員等により、随時ソーシャルワーカーとの話し合いを密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り指針の説明、契約時に執り行い、看取りの段階で主治医の判断で家族との話し合いがもたれ、家族の意向の確認、方向性必要なサービス等の話、計画への運び、看取りへの準備へ、家族、職員も不安なく受け入れられるように、繰り返し話し合いの時を持つ。	入居時に、重度化・終末期について説明し、状態変化があった場合には、その都度、話し合いを行っている。入居者、職員と一緒に生活をしながら、看取りを行うことができる体制を整え、医師との連携を図り、最期の時を迎えることができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一般的な救急に対しては、研修会等で個々の自己研鑽に努め、ホーム内で日頃起きてしまっている事等に対して様子観察、カンファレンスの場を利用して、看護師による実践、指導が行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練(消防署立ち合い)の実施。避難訓練においては地域推進委員さんの参加も得て人員確保に協力を頂き、地域の連絡網にも取りこまれ、区長さんにも協力が得られている。	消防署立会いの下、年2回の避難訓練を実施している。訓練では民生委員や婦人会部長等の地域の協力も得て行っている。また、家電やコンセントの状況等を確認し漏電防止に努め、食料の備蓄などにも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	通常月2回のカンファレンスにて学習、問題、きずきが発生時はすぐその日にミニカンファを実施自己の振り返りを行っている。	入居者の前では他者の方の話をしない等、職員は言動に注意し対応をしている。また、入居者が何らかの失敗をした場合にもさりげなく支援し、失敗の原因を見つけ、予防できるように検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に寄り添った関わりで察知でき、本人に確認のケアといった状態である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のリズムに合わせたケア、介護者のペース、都合に合わせない、援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護者が常に気配りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方、望まれる方には食材のした準備で食事が楽しいものになっている。	食材の準備や食事の片づけ等、身体状況に合わせてできることを行ってもらっている。また、バイキング等の季節行事に合わせた食事の提供をする等の工夫をし、食事が楽しみなものになるよう一緒に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量 水分等の記録は常に行い不足等について早めの対応がなされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のケアの徹底、特にケアの必要な方のケアは職員の手により実施。又訪問歯科も依頼、ケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の状態によってリハパンツからパンツへと排泄パターンを知る事でおむつ廃止、パットのみの使用で快適に過ごせる援助。又排泄パターンを知る事で誘導での成功、失禁の減につながったりもしている。	一人ひとりのしぐさの観察や排泄パターンのチェック表を用い、トイレへ誘導している。オムツ使用を減らし、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事においては食物繊維の提供、排せつ記録の徹底によりDrより排便コントロールを処方薬で実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴。1人づつ入浴ゆくりと楽しまれている。	週2回入浴日を基本としつつ、いつでも入浴できるようにしている。入居者の状況に合わせて、シャワー浴や2人体制での入浴を行う等、個々に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤服用者もあるが1日の過ごし方もあるが本人希望すれば時間に関係なく横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファの席で服薬の内容の説明。日々の内服にあたっては、誤薬がないようにその日「の責任者1人に絞り確認者も1名決め、内服される時は声の掛け合いを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週1回のレクリエーション、毎日の歌の時間本人の好きな歌を1曲取り入れたり、できるだけ1人で淋しい時間を作らないように図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できる人が限られており、家族で出来る方は時折外出におつれされたり、ホームでは近隣の散歩にわずかな時間だけ行っている。	一人ひとりの状態やその時の気分に応じた外出支援を行っている。近隣の運動公園への散歩やテラスで出たり、家族の協力を得て外出する等、できるだけ外気に触れることができるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は家族管理で買い物の喜びはなく出来る方は少しのお金の準備孫たちに渡されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望めば家族に電話を入れ話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に匂いのない、清潔なホームとして快適に過ごせる環境づくりを行っている。	工夫を凝らした季節ごとの飾り付けを、リビング全面を使い行ったり、思い思いの場所で過ごせるようソファを置く等、居心地良く過ごせる空間づくりに努めている。また、トイレの臭い等、入居者が不快にならないように、職員はこまめに清掃し、清潔に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に席の問題で不安となられるので常に精神状態を検討、環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方の思い出の写真を飾ったりご本人さんの作品を貼ったり家族の方の持ち込みで工夫をしていただいている。	使い慣れた家具や仏壇等、持ち込みは自由であり、本人の思いに沿った居室づくりができるようにしている。また、混乱がないよう居室入口には、本人がわかりやすいサインを提示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の表札、トイレ等には張り紙、案内等で迷いのないように配慮を行っている。		